

令和2年度評価

輪之内町教育委員会の権限に属する
事務の管理及び執行の状況報告書

令和3年7月

輪之内町教育委員会

目 次

第1章 点検評価結果の概要

1. はじめに	1
2. 点検評価の実施について	1
<評価について>	1
3. 点検評価結果について	1
点検評価結果全体の概要	1
4. 点検評価結果の詳細	2
(1) 教育委員会の活動の状況	2
(2) 事務事業の執行状況	2

第2章 各事務事業ごとの点検評価シート

1. 教育委員会の活動の状況	3
2. 事務事業の執行状況	3～4

第1章 点検評価結果の概要

1. はじめに

輪之内町教育委員会では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、令和2年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検評価を行い、その結果に関する報告をここにまとめました。

2. 点検評価の実施について

この点検評価は、教育委員会の会議による審議状況や教育委員による視察等の調査活動と教育委員会が令和2年度に実施した事務事業の中から主要な20領域について、実績や成果と課題を記述し、次に示す5区分で達成度を評価しました。

<評価について>

点検評価においては、次の5区分により達成度の評価を行いました。

評 定	内 容
A	順調に達成しているもの 80%以上
B	おおむね順調に達成しているもの 50%以上 80%未満
C	達成見込みであるが課題があるもの 20%以上 50%未満
D	順調でないもの 20%未満
—	評価不能 事業未実施

3. 点検評価結果全体の概要

◇ 教育委員会の活動状況
① 教育委員会会議の状況 順調に達成している (A)
② 調査活動の状況 評価不能 (—)
◇ 事務事業の執行状況
A 順調に達成しているもの 6/20 事業 (30%)
B おおむね順調に達成しているもの 12/20 事業 (60%)
C 達成見込みであるが課題があるもの 0/20 事業 (0%)
D 順調でないもの 0/20 事業 (0%)
— 評価不能 2/20 事業 (10%)

(1)「学校教育」の執行状況について

学校教育について、評定と数値で評価することとした。

町内小中学校に勤務する教職員の自校評価を点数化して、町内の学校の平均値を求めた。比較するために過去のデータをもとに点数化した。

評定だけでは分からない細やかな変化から、次年度への課題は明確にできるようにした。

(2)「社会教育」の執行状況について

社会教育について、評定で評価することとした。

各担当者が参加者の感想やアンケート、自己評価などで総合的に行った。

第2章 各事務事業ごとの点検評価シート

1. 教育委員会の活動状況

別紙「点検評価シート」のとおり

2. 事務事業の執行状況について

別紙「点検評価シート」のとおり

教育委員会の活動状況

点検項目	実 績	成果と課題	R2評価	R1評価	H30評価
教育委員会会議等の実施状況	【定例・臨時教育委員会】 開催回数: 定例会議 12回 臨時会議 1回 審議件数: 専決報告 0件 議案 9件 内可決 9件 【総合教育会議】 2回 【町教委学校訪問】 4校実施	【成果】 定例会議では、西濃地区教育長会等の内容や各学校での状況等を随時報告し、活発な意見交換がなされている。また、教育大綱、輪之内町教育振興基本計画、輪之内町いじめ防止等のための基本方針並びに職場環境を悪化させる行為の防止及び対応に関する指針及び運用要領の見直しの協議を実施した。 【課題】 教育に関する様々な今日的な課題について、十分な協議時間を確保することが難しいため、課題に対する深い議論が尽くせず、問題提起で終わっている状況がある。	A	A	A
調査活動の状況等	・全国町村教育長定期総会 (中止) ・西濃地区教委連絡協議会 (中止) ・西濃地区教委連絡協議会研修会 (中止) ・町内視察 5月～9月 各学校 ・岐阜県市町村教育委員会連合会 (中止) ・町研究発表会 (福東小学校 来年度へ延期) ・郡教育委員研修視察 (中止)	・コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施できなかった。	-	A	A

学校教育

◆各領域の評価は、町内教職員の評価を総合的に判断している。
達成率 80%以上→A 80%～50%→B 50%以下→C

領 域	重 点 目 標	成果と課題	R2評価	R1評価	H30評価
学校経営	全教職員が協力して活力ある学校経営をする。	○新型コロナウイルス感染予防対策や、それを踏まえた児童の生活や活動などを、全職員で共通理解をし、協力して確実に実行することができた。 ○19時退校や8の付く日、水曜日は18時退校を意識し、勤務時間の短縮に努めた。 △超過勤務になっている原因を明らかにして、管理職が助言をしたり学校全体で仕事の分担をしたりする。	A	B	A
			81.1	77.4	81.5
研修	自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	○研修を定期的に設けることで、パソコン・ICT活用・コロナ予防対策など時事に応じた研修ができた。 ○個々に自己課題をもって実践を積み重ねている。特に若い教師が指導力を高めている。 △今年度は予定通り校内研究会ができなかったため、来年度は計画的に実施して、全職員による授業参観、授業研究会をもつ。	B	B	B
			71.2	79.3	79.7
教科指導	基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する。	○活動制限が多い中でも工夫をした学習活動ができた。対話的な学びの場の代わりに演習等、技能の習得のために時間をとった。 ○デジタル教材等を活用することで主体的な学びになった。 △コロナ禍での対話的な活動は難しいため、習熟を図るための有効的な指導の仕方を研究していく必要がある。	B	B	B
			69.7	75.8	74.2
道徳教育	自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。	○コロナ禍のため、対話活動が難しいが、学年部で指導のあり方を工夫することで、自己の生き方について、考えを深めることができた。 ○道徳の授業を通して、誰かのために頑張ることについて考え、普段の生活の中でも思いやる行動が見られた。 △教科の時間や児童会・生徒会、学級活動で、道徳の授業で考えたり学んだりした道徳的な価値付けを大切にしている。	B	B	B
			75.9	71.6	74.9
外国語活動	外国語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力を高める。	○英語専科の教師やALTを中心に主体的に活動する授業を行い、それを評価するパフォーマンステストを実施することができた。 ○言葉や会話を積極的に練習し、英語でのコミュニケーションを図ろうとしたり、ゲームを楽しんだりすることができた。 △カナダ研修やスピーチコンテストが中止され、自分の英語力を試す場が少なかった。	B	B	B
			75.0	77.2	77.1
総合的な学習の時間の指導 (ふるさと教育・防災教育)	探究的な学習を通じて、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。	○コロナ禍においても、配慮しながらできる限り探究活動や校外学習を実施し、ふるさとについて学ぶことができた。 △職場体験学習や環境に関わる企業訪問などができず、年間計画のように学習を進めることはできなかった。 △2年の防災士学習は、中学生の実態に合った内容、学習の進め方などがさらに必要である。	B	B	B
			66.3	72.7	74.2
特別活動	所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	○仲間よさを認める活動を実施すること(よさ見つけ)で、児童の所属感を高めることができた。 ○QU検査が2回あることで、1回目の結果をもとに意図的な指導をすることができた。 △児童会・生徒会活動として発表の場を、オンラインなどで位置付けたい。	B	B	B
			73.1	77.0	79.4
生徒指導	共感的な児童生徒理解に徹し、よりよい人間関係の形成を図り、自己指導能力を育てる。	○アンケートの実施後、教育相談を実施することで、児童理解や不登校・問題行動等の未然防止につながっている。また、アンケート、教育相談だけでなく日常の会話や観察から子どもの変化を捉え、適切に対応できた。 ○生徒指導についての情報交流はさらに大切にして、職員間の共通理解・共通行動を図る。	A	B	A
			81.4	77.2	81.9
キャリア教育	社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育てる。	○キャリアパスポートを活用し、児童・生徒が書いた学期ごとのめあてや行事の振り返りなどを蓄積ができた。 ○体験したり、話を聞いたりする機会は減ったが、工夫して学習を進めることができた。 △職場体験学習や企業訪問ができなかったこともあり、勤務観や職業観を深めることが難しかった。	B	B	B
			63.4	68.7	72.4

健康安全教育	運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を送る態度を育てる。	○コロナ感染症予防対策を踏まえた「命を守る訓練」を計画通り実施し、自分の命を自分で守ることの大切さをくり返し指導することができた。 ○新型コロナウイルス感染症への対応で、朝・夜の検温や手洗いの徹底、登校時の消毒等をし、意識が高まった。 △朝の活動がなかったことで持久力や脚力が衰えないように、体育の授業の限られた時間の中で運動量を確保する。	B	B	A
			76.3	75.8	80.8
特別支援教育	一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる。	○就学指導について、教育委員会や特別支援学校と連携をし、保護者の理解を図ることができた。 ○主幹教諭や指導教諭を中心に指導方針や配慮事項について共通理解をすることができた。 △通常学級での支援を要する児童への支援体制を整え、学級の中での支援のあり方を検討していく必要がある。	B	A	B
			76.8	80.8	79.3
人権教育	自他の大切さを認め、互いに人権を尊重する望ましい人間関係を醸成する。	○人権担当や担任からのコロナハラスメントやいじめについての働きかけを行い、差別は許さないという意識を高めることができた。 ○あいさつすることで相手を認めることにつながることで、丁寧な言葉遣いが人権感覚を磨くことにつながることを継続的に指導することができた。 △いじめや差別を見逃さないよう、教師の感性を磨く研修を継続的に行っていく必要がある。	A	A	A
			83.3	80.3	85.6
ICT教育・図書館教育	教育の情報化を推進するとともに、児童生徒の情報活用能力を育成する。	○タブレットやインターネットを主体的に活用しようとする児童が増え、ICTに関わる技能が向上した。 ○新型コロナウイルス感染症予防対策のため集会活動などが制限される中、適宜、リモート機能を活用して、交流を図ることができた。 △ICTを活用すれば、必ず生徒達が生き生きと活動に取り組むとは限らない。活用することのメリット・デメリットについて、検証していく必要がある。	A	A	B
			82.8	85.1	78.4

社会教育 ◆各領域の評価は、参加者の感想やアンケート、主催者の自己評価などで総合的に行った。

領域	重点目標	成果と課題	R2評価	R1評価	H30評価
家庭教育	家庭教育に関する学習機会の提供。 子育ての支援と教育環境の整備。 地域づくり会議やPTA等の連携。	○新型コロナウイルス感染予防のため、家庭教育学級の事業が縮小され、行事参加型は減少し、在宅型取り組みが多かった。こども園は、年間3～9回開催され、参加率は65%～95%であった。各小中学校は、年間2～4回開催され、参加率は94%～100%であった。 ○町主催の合同家庭教育学級は外部講師による講演型を年間2回開催した。(第1回は中止した。)講座後の質疑応答で講師と交流ができた。参加者が新型コロナウイルス感染予防のため少なかった。	A	A	A
地域教育	子どもたちの社会参加・地域活動の促進。	○青少年育成町民会議に関わる地域作り諸行事にかかわって小中学生がネットモラルに関わる標語等の募集に積極的に参加できた。 △「輪之内町情報モラル宣言」を家庭・学校で取り組んだが、新型コロナウイルス感染症予防のため、合同会議は中止となった。形式を工夫するなどして継続する必要がある。	B	A	A
生涯学習環境	家庭、学校、地域社会が連携し、社会全体で子どもたちをはぐくむ地域づくり活動の推進。	○高齢者教室「みつば学級」を開設し、教養・健康・軽スポーツなど、その時々に応じた分野の講座を通年をとおして実施し、高齢者の生涯学習に取り組んだ。 △新型コロナウイルス感染予防のため前半は事業を中止した。後半は青少年育成町民会議に関わる地域づくり諸行事を規模や回数を縮小したが実施し、豊かな体験活動、健全な社会環境づくりを進めた。 △新型コロナウイルス感染予防のため夏休みが大幅に縮小され、小学生対象の総合的な体験学習講座である「わのうち未来塾」を実施することができなかった。	B	A	A
生涯学習体制・指導者	地域における主体的な社会教育活動を支援する取組の推進。	○町および地区の青少年育成推進員の方のご尽力により、各地区における活動が関係諸団体と連携を図りながら進められ、豊かな体験活動や啓蒙活動、健全な社会環境づくりに貢献した。 △子どもたちが主体となった活動を意図的に仕組んでいきたい。	B	A	A
芸術文化の振興	文化芸術活動の振興。 子どもの文化芸術体験の充実。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、以下の事業が実施できなかった。 △インリーダー研修会 中止 △町文化祭・芸能祭 中止 △わのうち未来塾 中止	-	A	A
伝統文化と郷土の歴史の保護継承	文化財や伝統芸能の保存・伝承・活用への支援。	○小学生に対して文化財の理解をすすめるため、冊子「輪之内町の文化財」の小学生版の作成に継続して取り組んだ。 △伝統文化財継承(5団体)の活動により、新型コロナウイルス感染防止対策をして、小中学生の祭り文化継承をすすめた。	A	A	A
スポーツ推進体制	スポーツ環境の諸整備(スポーツ推進体制の充実と施設の整備)	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、小学校区ごとに「地区スポーツ振興会」を設置し、ふれあい運動会を計画していたが、中止となった。 △利用者増加により、希望日の重複が発生し、施設使用できない者が増加傾向にある。	-	A	A
	生涯スポーツの振興(県民1スポーツ運動)	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、スポーツクラブが運営する定期教室や、体験型のスポーツ・レクリエーションイベント等、人を集めての行事は全て中止となった。 △クラブ運営の安定化に向けた人材の確保が必要である。			
	「県民1スポーツ運動」具現のための指導者育成	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、スポーツ推進委員やレクリエーション協会の有識者が、講習会等で助言する機会が無かった。 地区スポーツ推進委員が参加する事業も全て中止となった。			